

[26_04]九州大学大型計算機センター広報表紙奥付等

<https://hdl.handle.net/2324/1470234>

出版情報：九州大学大型計算機センター広報. 26 (4), 1993-07-26. 九州大学大型計算機センター
バージョン：
権利関係：

お 知 ら せ

TSSPFDエミュレータによるMHSメール利用マニュアル(英文)について

「TSSPFDエミュレータによるMHSメール利用マニュアル」(英文 全5ページ)ができました。

これは、九州大学理学部太和田 助教授と、米国オハイオ大学のバーリナー教授によって作成されたものです。データセットの'MHSMAIL.TSSPFD.TEXT(ASCII)'(ASCIIファイル)及び'MHSMAIL.TSSPFD.TEXT(TEX)'(TeX用ファイル)にそれぞれ格納していますので、必要な方は下記コマンドで印刷できます。オンラインコピーも可能です。また、2階オープン室にはフロッピーディスクを設置しておりますので各自コピーして下さい。

例) センターのA4版高速NLPに出力する。

```
READY
LIST 'MHSMAIL.TSSPFD.TEXT(ASCII)' SH(H) NOT
```

なお、この利用法はMHSMAILの最小限の機能について説明されています。必要に応じて文献1を参照して下さい。

また、TSSPFDエミュレータはNECのPC-9801シリーズで動作するものです。このソフトはセンターの2階オープン室に設置しており、またオンラインコピーサービスを行っていますので、必要な方は各自で入手して下さい。使用法の詳細は文献2を参照して下さい。

参考文献

1. 原田盛一他：MHSメールシステムの利用法，九州大学大型計算機センター広報，V o. 1. 24, No. 6, 1991, pp. 580-625.
2. 武政尹士，正木延幸：高速多機能TSS端末エミュレータ：TSSPFD（バージョンアップ版），九州大学大型計算機センター広報，V o. 1. 24, No. 4, 1991, pp. 373-380.

(ネットワーク掛 内線2543)

(センターニュースNo 483, 平成5年4月26日発行)

1993年度(平成5年度)ライブラリプログラム開発計画について

1993年度(平成5年度)前期分として承認された開発計画は下表の通りです。

開発番号	課題名	開発者(所属)	開発期間	開発時間	備考
24-1	デバイスシミュレータ MINIMOSの移植	黒木 幸令 九州大学工学部 電子工学科	1993 4.1 ~ 1993 11.30	180分	継続

開発番号	課題名	開発者(所属)	開発期間	開発時間	備考
24-2	X線結晶構造解析用 プログラム(UNICS VI) の開発	河野 重昭 九州女学院短大	1993 4.1 ～ 1994 3.31	180分	新規

(ライブラリ室 内線 2 5 0 9)
e-mail : f70029a@kyu-cc.cc.kyushu-u.ac.jp
(センターニュースNo 483, 平成5年4月26日発行)

SASコマンド, カタログドプロシジャの統一

1993年6月1日より統計解析システム SAS を新システム・バージョン 6.07J に一本化します。これに伴い1993年5月末日をもって, コマンド SAS607, RSAS607, カタログドプロシジャ SAS607 を廃止します。1993年6月からはコマンド SAS, RSAS, カタログドプロシジャ SAS により SAS release 6.07J が起動されます。

SAS release 6.07J の使用方法は下記参考文献を参照下さい。

【参考文献】

- 「SAS system release 6.07J について」九州大学大型計算機センター広報, Vol.26, No.3.

(ライブラリ室 内線 2509)
e-mail : f70029a@kyu-cc.cc.kyushu-u.ac.jp
(センターニュースNo 484, 平成5年5月17日発行)

XTERM6683クライアント[端末エミュレータ]の公開について[MSP]

MSPにTCP/IP接続されたXサーバ機能を持つワークステーションやX端末から利用可能な, F6683端末(図形表示可能なフルスクリーンVDS端末)のエミュレーション機能を持つXTERM6683クライアントを5月17日(月)から公開します。このクライアントを起動すると, 新しくMSPのセッションが開設されます。複数のXTERM6683クライアントを起動することが可能です。XTERM6683クライアントを起動する方法には以下の2つがあります。

1. TELNETサーバ接続時での起動
2. TSSセッション中でのX6683コマンドによる起動

それぞれ利用法は以下の通りです。

・ 1 による方法

1) M S P の T E L N E T サーバに接続する。接続に先だって X サーバ (ワークステーション) 側で "xhost kyu-msp" 等の設定が必要である。なお、kyu-msp の IP アドレスは 133.5.9.2 である。

telnet kyu-msp

PLEASE KEY IN "TERMINAL TYPE"(E:END,%X:XTERM6683,NULL:HELP)--->%X

2) X T E R M 6 6 8 3 の初期画面が表示される。

3) リターンキーを押すと、" 端末一覧" が表示されるので、該当するものを T A B キーで選択する。現在当センターで準備している主な端末タイプは以下の通りである。普通 KTERM を選択すればよい。

端末タイプ	英字フォント	漢字フォント	備考
XTERM	a14	-	F9526
XTERML	a24	-	F9526, 大画面
KTERM	a14	k14	F6683
KTERMKANA	rk14	k14	F6683, 加端末エミュレート可
KTERML	a24	k24	F6683, 大画面
KTERMKANAL	rk24	k24	F6683, 大画面, 加端末エミュレート可
XSTATION	-	-	F6683, 加端末エミュレート可
XSTATIONL	-	-	F6683, 大画面, 加端末エミュレート可
G150	-	-	F6683, 加端末エミュレート可
G150L	-	-	F6683, 大画面, 加端末エミュレート可

4) リターンキーを押すと初期画面に戻り、再度リターンキーを押すと X T E R M 6 6 8 3 のウィンドウが表示され、L O G O N 可能となる。

・ 2 による方法

1) X サーバ (ワークステーション) 側で "xhost kyu-msp" の設定が必要である。

2) X 6 6 8 3 コマンドを入力する。

READY

X6683 IPアドレス

ここで、IP アドレスは X サーバが起動されているワークステーションの IP アドレスである。

2) X T E R M 6 6 8 3 の初期画面が表示される。

3) リターンキーを押すと、" 端末一覧" が表示されるので、該当するものを T A B キーで選択する。

4) リターンキーを押すと初期画面に戻り、再度リターンキーを押すと X T E R M 6 6 8 3 のウィンドウが表示され、L O G O N 可能となる。

注意事項

1. キーマップ (PFキーなどの入力キー割当て一覧) の表示は "ESC + K" である。
2. 文字フォント名は各端末タイプで固定されているので、Xサーバが持っているフォント名がこれと異なる場合はaliasをつける等の処置が必要である。
3. センターで準備している端末タイプは適宜追加等を行うので注意されたい。
4. 端末タイプ KTERMKANA, KTERMKANAL等は小文字端末モードとカナ端末モードを交互に切り替えることが可能である。CHARTOGL機能に割り当てられているキーを押して切り替える。

(ネットワーク掛 内線2542)

(センターニュースNo 484, 平成5年5月17日発行)

AMPS, AMPS/VPの公開 (MSP)

1993年6月7日(月)より標記ソフトウェアをMSP上で公開します。AMPS(Advanced Mathematical Programming System)は、線形計画問題の他、混合整数問題などの数理計画問題の最適化を行なうソフトウェアです。AMPSは、ユーザサブルーチンをシステムに組み込んだり、ユーザプログラムからシステムを機能毎に呼び出したりすることが可能です。

AMPS/VPはAMPSの処理をベクトルプロセッサVP2600上で処理するためのソフトです。機能・使用方法はAMPSと同様ですが、バッチのみでの処理となります。

起動方法はTSSコマンドAMPS及びカタログドプロシジャはAMPSです。使用方法は下記参考文献をご覧ください。

1 コマンド AMPS について

【機能】

数理計画法システムAMPSをMSPのTSS形式で起動する。対話形式でAMPSの処理を行なうことにより、ケーススタディーの緻密な分析が出来る。対話処理モードでは、直接コマンドとして使用できない制御文があるので注意。

【入力形式】

```
AMPS    [ SIZE ( ' 64, 32, 10 ' ) ]
        [ PRVLIB ( データセット名 ) ]
```

【オペランドの説明】

SIZE : 左から順番に次の領域規模を指定する。

- ・ ユーザリージョンのうち、AMPSが解放する領域の大きさ (KB)
- ・ AMPSが内部的に使用するスタック領域の大きさ (KB)
- ・ 拡張リージョンを確保する作業領域の大きさ (MB)

SIZE('100,50,20'), SIZE(',,15') 等と指定する。下線は省略値を表す。

PRVLIB: 組み込みたい私用ライブラリのデータセット名を指定する。

【使用例】

- AMPS を起動し、LP 問題を対話処理で実行する。予め標準データ入力ファイルとして AMPS.DATA を作成してあるとする。標準データ入力ファイルの内容は、「カタログド プロシジャ AMPS について」の 'AMPS.SYSDATA DD *' 以下で記述された内容とする。

```

READY
AMPS <--- AMPS の起動

AMPS_ INPUT INDSN('A79999A.AMPS.DATA') <--- データの入力

<<INPUT CPU OMIN 0.00SEC ELAPSED 1MIN 23.16SEC>>

PARAMETERS: INDSN('A79999A.AMPS.DATA')

DATA DECK NAME ---- SAMPLE
FROM ----- 'A79999A.AMPS.DATA'
MODEL NAME ----- SAMPLE TO MASTFILE M0000000
CREATED DATE ----- 93.09.14 16:52:25

FIRST APPEARANCE DATA
FREE ROW -- PROFIT MAXIMIZE
RHS -- RHS
RANGE -- RNG
BOUND -- BND

SECTION TOTAL NNZ MIN NZ MAX NZ
ROWS 5
COLUMNS 2 10 2.000000 9.000000
RHS 1 4 70.000000 180.000000
RANGES 1 1 30.000000 30.000000
BOUNDS 1 1 11.000000 20.000000

AMPS_ SETUP <--- 問題を取り出し展開する。

<<SETUP CPU OMIN 0.09SEC ELAPSED 1MIN 30.29SEC>>

MODEL NAME : SAMPLE FILE NAME : MASTFILE
CREATED : 93.04.14 AT 16:52:25
INPUT ROWS : 5 INPUT COLUMNS: 2

MINMAX : MAX
OBJECT FUNC. : PROFIT
RHS : RHS

```

RANGE : RNG
BOUND : BND

ROWS : 5 COLUMNS : 2
MATRIX NNZ : 15
RHS NNZ : 4
RANGE NNZ : 1
BOUND NNZ : 1

AMPS_ PRIMAL <--- LP問題をシンプレクス法のプライマル手法
により最適化する。

<<PRIMAL CPU OMIN 0.11SEC ELAPSED 1MIN 39.02SEC>>

OPTIMAL SOLUTION 210.000000 HAS BEEN OBTAINED
ITERATION = 1 , CPU = OMIN 0.11SEC

AMPS_ SOLUTION <--- 解の情報を出力する

<<SOLUTION CPU OMIN 0.11SEC ELAPSED 1MIN 44.77SEC>>

MODEL NAME -- SAMPLE
OPTIMIZE PROCEDURE -- PRIMAL
STATUS -- OPTIMAL

OBJECTIVE -- PROFIT
RHS -- RHS
BOUND -- BND
RANGE -- RNG

AFTER 1 ITERATIONS

OBJECTIVE FUNCTIONAL VALUE = 210.000000 (MAX)

>SOL_ EXIT <--- サブコマンドモードを終了する。

AMPS_ END <--- AMPS の実行を終了する。

<<END CPU OMIN 0.11SEC ELAPSED 1MIN 52.33SEC>>

READY

2 カタログドプロシジャ AMPS について

【機能】

AMPS, AMPS/VP をバッチ処理で実行する。TSS では実行が困難な大規模、長時間ジョブを処理したい時に効果がある。AMPS を VP2600 で処理する場合は、パラメータとして VP=YES を指定する。

【入力形式】

```
AMPS      [, SYSOUT = { A | H | K | O | S | U } ]  
          [, SIZE = ' 32, 64, 10 ' ]  
          [, VP = YES ]  
          [, PRVLIB ( データセット名 ) ]
```

【記号パラメータの説明】

SYSOUT : 出力クラスを指定する。

A - NLP
O - NLP
H - A4 版高速 NLP
K - カナ付き NLP
U - オープン NLP, CLP

VP=YES : VP2600 上で AMPS/VP を起動することを指定。

SIZE : 左から順番に次の領域規模を指定する。

- ・ユーザーリージョンのうち、AMPS が解放する領域の大きさ (KB)
- ・AMPS が内部的に使用するスタック領域の大きさ (KB)
- ・拡張リージョンを確保する作業領域の大きさ (MB)

PRVLIB : 組み込みたい私用ライブラリのデータセット名を指定する。

【プロシジャステップ】

AMPS

【関連する DD 名】

AMPS.SYSIN : 標準入力ファイルを指定。

AMPS.SYSDATA : 標準データ入力ファイルを指定。

【使用例】

- 入力ファイル、データ入力ファイルを直接 JCL に記述する。

```
//A79999A JOB CLASS=A
```



```

// EXEC AMPS
//AMPS.SYSIN DD *
  PROCEDURE;
  INPUT;
  SETUP;
  PRIMAL;
  SOLUTION;
  STOP;
  END;

/*
//AMPS.SYSDATA DD *
NAME          SAMPLE
ROWS
  N  PROFIT    MAX
  L  RUBBER
  L  ELECTRIC
  G  MAN
  E  FUNDS
COLUMNS
  REGULAR  PROFIT          7.0  RUBBER          4.0
  REGULAR  ELECTRIC        6.0  MAN              9.0
  REGULAR  FUNDS           2.0
  RADIAL   PROFIT          8.0  RUBBER          8.0
  RADIAL   ELECTRIC        4.0  MAN              3.0
  RADIAL   FUNDS           3.0
RHS
  RHS      RUBBER          180.0  ELECTRIC        140.0
  RHS      MAN             150.0  FUNDS           70.0
RANGES
  RNG      RUBBER          30.0
BOUNDS
  LO BND   REGULAR         11.0
  UP BND   REGULAR         20.0
ENDATA
/*
//

```

- VP2600 上で AMPS/VP を実行する。入力ファイルは AMPS.SAMPLE, データ入力ファイルは AMPS.DATA とする。

```

//A79999A JOB CLASS=A
// EXEC AMPS,VP=YES
//AMPS.SYSIN DD DSN=A79999A.AMPS.SAMPLE,DISP=SHR

```

```
//AMPS.SYSDATA DD DSN=A79999A.AMPS.DATA,DISP=SHR  
//
```

【参考文献】

- 「FACOM OS IV AMPS 説明書」 (70SP-7190) , 富士通株式会社.

(ライブラリ室 内線 2509)

e-mail : f70029a@kyu-cc.cc.kyushu-u.ac.jp

(センターニュースNo 485, 平成5年6月7日発行)